

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア植田		
所在地	愛知県名古屋市天白区植田1-1807		
自己評価作成日	平成23年1月23日	評価結果市町村受理日	平成23年3月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成23年2月9日	評価確定日	平成23年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ一人ひとりが、利用者様一人ひとりの人間性や性格に配慮し誇りやプライバシーを損なわないよう声掛けをしながらのケアを重視しています。家事なども共に協力し合いながら楽しく、ゆったりと生活していただけるように空間づくりと環境を整え、四季折々の行事やレクリエーションを組み込みながら支援しています。また医療面では、隣接する山内外科との連携を密に取り、24時間体制で安心していただけるよう、健康管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは店や住宅やマンションが混在する地域である。近くには公園があり子ども達の声や四季の移り変わりを楽しんでいる。職員は理念を念頭におき、入居者を第一に考えたケアの実践に取り組み、入居者一人ひとりが望む生活やその人らしい生活ができるよう、職員間で話し合い検討している。笑顔をモットーに明るく気さくでチームワークの良いホームである。入居者の高齢化、重度化が進む中、ホームでの生活に笑いがあり、季節を感じてもらえるよう行事や作品、おやつ作りなど入居者と職員が一緒に行い、楽しんでいる。母体が医療法人であり、協力医が隣接していることから、医療面で連携ができており、家族も安心できる環境である。また、歯科やリハビリなどの支援も充実し、職員と入居者は馴染みの関係ができています。最期まで入居者に寄り添うことで生きることや老いることの意味を職員は肌で学んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念に加え、当施設では、ゆっくり、のんびりとした生活をベースにその人らしい暮らしを送れるように努めています。	法人の理念をもとに事業所独自の理念をつくりあげている。今までの生活と変わりなく、安らかに心和む暮らしをホームで送れるよう入居者を第一に考えたケアに努めている。会議は理念を振り返る機会であり、入居者一人ひとりを理解したうえでその人らしさを追求している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の関わりが薄く、日常的な交流は少ないが、外出先では、声をかけてくださる方や、何をしているところなのか関心を示して下さる方もいらっしゃる、今後は地域の催し等に参加し、こちらからも交流を図っていけるようにしていきたい。	町内会に加入することを検討し、回覧板などから地域の情報を得て、かかわりを深めていきたいと考えている。入居者の高齢化や重度化に伴い、外出するには職員の体制を整えることが必要であり、気軽に地域に出て交流する機会は現状としては少ない。歩いて行ける駅前の店などに買い物に出かけることがあり、入居者も楽しんでいる。	地域社会とのつながりの中で、入居者がその人らしく暮らし続けることを支援するために、馴染みの関係づくりや協力体制など地域に開かれた存在となるよう今後の取り組みに期待される。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域の方々の理解は難しいですが、外食先、買い物先の場を利用し理解頂けるようになってきています。、今後地域との関わりを深めて行きたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。ご家族、ご利用者様の意見、要望を反映できるよう努めています。今後、社会福祉協議会の協力を得ながらサービス向上に活かしていきます。	2カ月に1回開催している。家族が参加しやすいよう考慮した曜日や時間帯に行い、職員の異動について報告したり、家族の意見や要望などを聞いている。今後は地域の方や行政等、幅広いメンバーにも参加してもらえるよう時間帯等を変更する。次回の会議には社会福祉協議会の方の参加が予定されている。	運営推進会議は外部の人々にホームの取り組みを知ってもらう良い機会である。地域資源の一つとしてホームの役割を地域に還元する等、地域で支え合うネットワークとして今後の発展に期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携の下、相談指導等受けながら実情やサービスの取り組みに関して、協力関係を築いています。	市役所や区役所との連絡は管理者が行い、相談した際にはアドバイス等ももらっている。名古屋市主催の研修会等にも参加している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠には外部からの侵入を防ぎ、利用者様の安全を考えやむを得ないが、利用者様の状況に合わせて解除しています。身体面はご家族様の同意を得たうえ、最小限で行い、会議等で課題に挙げ、注意を促しケアに取り組んでいます。	ベッド柵など安全上やむを得ず行わなければならない時は、職員で話し合い、一番よい方法を検討している。また、家族に相談し理解を得たうえで、同意書を出している。玄関の施錠については安全上、常時施錠しているが、入居者の抑圧感を緩和できるようリビングの窓は施錠せず自由に入出入りすることができる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で勉強会を開き、スタッフ同士、言葉使いや行動に互いに注意を払いながら業務に当たり、スタッフは行き場を伝え、互いに行動の把握をし合い、予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現管理者が研修等に行き、必要に応じて対応出来るようにしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、契約時等には当施設の方針、内容等について十分に説明し、納得していただき、契約を交わしたうえで、入居して頂いています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に一度の運営推進会議及び面会時等に意見、要望を伺い反映に努めています。	運営推進会議の時や来訪時に家族に気軽に意見や要望を話してもらえるよう努めている。今回の家族アンケートの結果から、レクリエーションについての要望があがっていた。家族が感じている率直な想いを知る機会となり、会議で職員と話し合っていきたいと考えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で各スタッフの意見を聞く機会を設け、話しやすい環境づくりに努め、必要に応じては合同ミーティングにて意見、提案を反映に努めています。	管理者は職員が意見を出しやすいように会議の議題を提起し、職員間での話し合いの時間を大切にしている。また、職員の休憩時間を1時間確保し、働きやすい環境づくりに努めている。職員同士の仲も良く、互いに意見を出し合いケアに関するモチベーションを高めている。個人面談等の機会は設けていないが、管理者は職員と日頃からコミュニケーションを図り、職員の話聴いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価及び勤務状況の把握を行い、各自の向上に反映させています。時間外については必要に応じて給与に反映させています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会や研修を受ける機会を確保し、個々のスキルアップを図っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の勉強会などに参加し、交流を図っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時から本人の発言に耳を傾け、入所されてからも本人が困っている事、不安な事等をスタッフ間で話し合い、本人が安心して生活していけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心して頂けるよう、意見や要望又は困っている事に傾聴し、スタッフ間での伝達を密に取り、信頼関係を築いています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様にとって、今、何が最も必要なのかをスタッフの目を通して見極め、サービスに対応していけるようにつとめています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの人間性や性格に配慮しながら、本人のやれる事、やりたい事を日常生活上の営みの中で互いに協力し合いながら、安心して納得して生活していけるよう配慮しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のしたい事、又は可能性のある事をご家族様と一緒に考えて行くよう努めています。また、体調の変化や訴えのある時は、ご家族様に連絡を取り、理解していただけるように努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの品等、置いて安心して生活していただけるよう支援しています。また、施設に来所して頂きやすいよう配慮しています。	ドライブに出かけた際には、入居者の馴染みの場所に寄り道をして、昔の話を聴いたり、自宅の仏壇に線香をあげたいと希望する入居者には、家族に協力してもらい実現している。年賀状などは、職員が個別に支援して関係を継続できるよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの人間性や性格に配慮しながら孤立しないよう、安心と納得して生活していただけるよう努めています。利用者様同士の会話の橋渡しをしたり、会話のフォローやトラブルの予防に努めています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所してからも、ご家族様の協力のもと、友人にも来所して頂き、関係が断ち切れないよう配慮しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前にフェースシート等で、情報収集を行い、一人ひとりの生活のリズム、暮らし方等を把握し、思いや意向を組み取るように検討しています。	入居時に本人の希望や生活歴、状況等を家族に確認し、毎日の生活の中で会話や行動、表情など観察したことをケア会議で話し合い、情報を共有して思いや意向を汲み取るよう努めている。また、かかわり方や方法などについては、入居者にとって一番よい方法を皆で検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりサマリーやフェースシート等を参考にし、ご家族様の来所時等に話を伺う等したりしながら把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り等を通じて、一日の暮らしの中での状態等、現状把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの受け持ち担当制としており、本人やご家族様の意見を介護計画の中に反映できるよう、話し合いを持ちながら計画作成しています。	介護計画は職員皆で作成するものという意識を持ち、会議や申し送りの場で入居者の状態や介護について意見を出し合い、介護計画に反映している。職員の負担を減らすための計画にならないよう常に問いかけ、入居者のための個別計画であるよう心がけている。	入居者一人ひとりに応じた計画内容を作成している。本人の希望や意向の把握については日頃から尽力していることから、計画書の希望欄も随時更新していくことを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや申し送り等を通じて情報を共有しながらケアの実践、気づきや工夫を記録し、介護計画の見直しに活かしています。また、病状の変化に伴い、見直しを行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社協の協力のもと、ボランティア等の社会資源の活用を支援し、その時々状況に対応しながらサービスにあたり、支援していけるよう努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのかかわりは少ないが、馴染みの人や店を作っています。外出の機会を増やし、地域資源を活用していけるよう支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、週一回。病状に応じて随時、病院受診。夜間急変等、24時間対応していただき、本人、ご家族様に安心していただけるよう支援しています。	協力医が隣接しており、週1回の往診や医療面におけるサポートを全面的に行っている。他のかかりつけ医を希望する場合には家族が付き添い受診後の情報を確認している。調剤薬局の薬剤師による内服管理が行われ、歯科医の口腔ケアが週1回、訪問リハビリは週4回受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護職員が訪問、健康管理を行っており、随時、山内外科の看護師、訪問看護師と連携を取り、24時間を持って適切な支援を受けられるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談は密に行うように努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、医師、看護師、ご家族様との話し合いを持ち、十分に説明、理解、納得していただきスタッフと共に支援に取り組んでいます。	「重度化した場合における対応にかかる指針」を定め、入居時に同意を得ている。家族の希望によりホームで看取りを行った経験もあり、医師の指導のもと職員間で話し合いながら取り組んだ。医療と介護の連携を強化し、その人らしく最期まで充実した生活を送れるよう、チームで協力しながらサポートしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングなどで勉強会を開催、対応、予防について理解を深め事故発生時は速やかに医師と連絡が取れるよう体制を整えています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年に2回、消防署の協力を得ながら、行っています。発生時に備え、日頃から利用者様が、避難できるよう装置等の確認と点検を行っています。	避難訓練を年2回行っている。ホームは4階建てであり、車椅子を使用している入居者も多い。避難策などは消防署の協力を得ながら、装置等について職員に取り扱いを指導してもらい、確実に誘導できるように備えている。	災害に備えて数日の食料や飲料水、寒さをしのげる物品などを準備しておくことや、家具の固定、地域との協力体制の構築に期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人ひとりが、利用者様の人格、ほこりやプライバシーに配慮した声掛け、自尊心、周囲に対するケア、配慮した声掛けやケアを行っている。	起床時間等は一律ではなく、今までの本人の生活パターンを考慮している。また、体調を配慮して昼食後は皆がいる居間のソファで横になったり、仲間とおしゃべりを楽しんだりする等、一人ひとりを尊重し本人のペースで生活できるよう支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、思いや希望等自己決定できるよう、あらかじめ選択肢を用意し工夫しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに配慮しながら、その日の希望に出来るだけ添えるよう努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの色や服装を理解し、身だしなみ、おしゃれ等に気を配っています。美容院の方が2ヶ月に1回来所し、好みのカットをして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に対応、出来る方には準備の段階から手伝って頂き、スタッフと共に楽しむ事が出来るよう支援しています。	献立や食材は業者に依頼しているが、入居者の好みに合わせて調理を工夫している。月1回リクエストメニューを取り入れている。誕生日には手作りケーキでお祝いしている。また、おやつは手作りの日を週に数回もうけ、入居者と一緒に作っている。職員は弁当持参で介助しながら食卓を囲んで一緒に食事している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は記録を行い把握。状況に応じては医師の指示のもと、栄養補助食品の利用を行い、又は点滴を行って頂きながら支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り自己で行えるよう、声掛け等で支援しています。週1度、歯科による口腔衛生に努めています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、出来るだけトイレでの排泄誘導をおこなっています。個々の排泄間隔を確認しながら介助に当たり、夜間は安眠できるようパットの種類を検討しながら支援にあたっています。	排泄チェック表を使用している。職員がすぐに対応できるように個々のパットはトイレの棚に用意し、本人に不快な思いをさせないよう支援している。手洗い後のタオルはその都度新しいタオルを使うよう準備している。	さらに排泄チェック表を活用して、個々の状況を把握し、失禁やオムツ、パットの使用を減らし、排泄の自立に向けて支援することに期待したい。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握し、体力維持につなげ、出来るだけ自然排便が出来るよう努めている。時に腹部マッサージ、薬調整をしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調と意思をもとに支援しています。体調に応じ、随時清拭等に切り替え対応しています。時に応じ、ゆず湯や森林浴等の入浴剤などを利用しています。	毎日午後に入浴している。冬場は入居者が寒くないよう脱衣所や浴室を暖房し、抵抗感を持たないようにしている。また、職員は個々に応じた介助を行い、一人ずつゆったりと寛いだ気分で入浴している。健康チェックと月1回体重測定をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら休息を促したり、安心して眠って頂けるよう環境を整えています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指導のもと、服薬後の状態観察を行うよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の移ろいを感じて頂けるよう、年に2回の行楽、外気に触れられるような外出計画等を行っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り外出の機会を設け、出かけるように努めています。ご家族様にも一緒に出かけて頂けるように声掛け等をさせて頂いています。	春は日帰り旅行、秋は1泊の温泉旅行を法人内の他のホームと合同で出かけ、入居者の笑顔と刺激の機会になっている。行き着けの喫茶店やスーパー、近くの公園に散歩に出かけている。天白川や農業センター等には花見に出かけている。	本人の想いや希望に添った外出に尽力していることから、今後も継続して取り組んでいくことを期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設立替であるが、自己管理出来る方は、ご家族同意のもと管理し買い物等の援助をしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話希望等は、出来る限り希望に添えるよう支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感、清潔感を配慮しながら、洗濯物干し、洗濯たたみ、夕食のおかずの盛り付け等を職員と行い、共に生活をしている気持ちを持って頂いています。季節の果物、風物誌レクでの作品等を展示し居心地の良い空間づくりを大切にしながら生活していただけるよう工夫しています。	1階と4階のフロアは、皆で過ごすリビングや浴室等がある共用空間となっている。職員が注意を払うことができる広さで目が行き届き、洗濯物を干したり畳んだり、食事作りなど職員の動きを見て入居者ができることを手伝い、共に助け合い生活している様子が見える。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の意思に沿った生活を送って頂けるよう、利用者様同士、お互いの部屋を気楽に行き来できるよう配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活習慣や好みの物、馴染みの物等を飾るなど工夫し、居心地良く過ごせる居室づくりに配慮しています。	「今までと変わらない安らかで心和む暮らし」が基本にあり、居室を訪問すると入居者の暮らしが分かる。部屋にはベッドや整理タンス、洋服タンス、エアコン、ナースコールが設置され、毎週シーツ交換をし室内もきれいに管理されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアを提供するのではなく、出来る事、解かる事の確認をし安全な環境づくりの工夫をし、トイレ、入浴、居室の場所の目印表示を行い、自立生活を送って頂けるよう支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア植田		
所在地	愛知県名古屋市中天白区植田1-1807		
自己評価作成日	平成23年1月23日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ一人ひとりが、利用者様一人ひとりの人間性や性格に配慮し、誇りやプライバシーを損なわないような声掛けをしながらのケアを重視しています。ご本人のやれる事、したい事を見極めながら利用者様同士の関係にも配慮し、楽しくゆったりとした生活が送れるように空間づくりと環境を整え、四季折々の行事やレクリエーションに組み込みながら支援しています。また医療面では、隣接する山内外科との連携を密に取り、24時間体制で安心していただけるよう健康管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>当事業所の基本理念に加え、当施設では、ゆっくり、のんびりとした生活をベースにその人らしい暮らしを送れるように努めています。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の関わりが薄く、日常的な交流は少ないが、外出先では、声をかけてくださる方や、何をしているところなのか関心を示して下さる方もいらっしゃる、今後は地域の催し等に参加し、こちらからも交流を図っていきけるようになっていきたい。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>まだまだ地域の方々の理解は難しいですが、外食先、買い物先の場を利用し理解頂けるようになってきています。、今後地域との関わりを深めて行きたい。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催。ご家族、ご利用者様の意見、要望を反映できるよう努めています。今後、社会福祉協議会の協力を得ながらサービス向上に活かしていきます。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村との連携の下、相談指導等受けながら実情やサービスの取り組みに関して、協力関係を築いています。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠には外部からの侵入を防ぎ、利用者様の安全を考えやむを得ないが、利用者様の状況に合わせて解除しています。身体面はご家族様の同意を得たうえ、最小限で行い、会議等で課題に挙げ、注意を促しケアに取り組んでいます。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティング等で勉強会を開き、スタッフ同士、言葉使いや行動に互いに注意を払いながら業務に当たり、スタッフは行き場を伝え、互いに行動の把握をし合い、予防に努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現管理者が研修等に行き、必要に応じて対応出来るようにしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、契約時等には当施設の方針、内容等について十分に説明し、納得していただき、契約を交わしたうえで、入居して頂いています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に一度の運営推進会議及び面会時等に意見、要望を伺い反映に努めています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で各スタッフの意見を聞く機会を設け、話しやすい環境づくりに努め、必要に応じては合同ミーティングにて意見、提案をし反映に努めています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価及び勤務状況の把握を行い、各自の向上に反映させています。時間外については必要に応じて給与に反映させています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の勉強会や研修を受ける機会を確保し、個々のスキルアップを図っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の勉強会などに参加し、交流を図っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時から本人の発言に耳を傾け、入所されてからも本人が困っている事、不安な事等をスタッフ間で話し合い、本人が安心して生活していけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心して頂けるよう、意見や要望又は困っている事に傾聴し、スタッフ間での伝達を密に取り、信頼関係を築いています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様にとって、今、何が最も必要なのかをスタッフの目を通して見極め、サービスに対応していけるようにつとめています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの人間性や性格に配慮しながら、本人のやれる事、やりたい事を日常生活上の営みの中で互いに協力し合いながら、安心して納得して生活していけるよう配慮しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のしたい事、又は可能性のある事をご家族様と一緒に考えて行くよう努めています。また、体調の変化や訴えのある時は、ご家族様に連絡を取り、理解していただけるように努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの品等、置いて安心して生活していただけるよう支援しています。今後、知人友人等の関係が続けられるよう支援していきたい。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を理解し、利用者様一人ひとりが孤立しないよう、スタッフが間に入り支援しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所してから、ご家族様の協力のもと、友人にも来所して頂き、関係が断ち切れないよう配慮しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活スタイルに合わせて、日々生活が送れるように援助しています。理解困難な方に対しては、職員同士で話し合い、その人同士で話せるように援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりサマリーやフェースシート等を参考にし、ご家族様の来所時等に話を伺う等したりしながら把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りを通して、又一日の暮らしの中で、本人の状況を把握し、暮らしやすい生活が送れるように努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの受け持ち担当制としており、本人やご家族様の意見を介護計画の中に反映できるよう、話し合いを持ちながら計画作成しています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや申し送り等を通じて情報を共有しながらケアの実践、気づきや工夫を記録し、介護計画の見直しに活かしています。また、病状の変化に伴い、見直しを行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社協の協力のもと、ボランティア等の社会資源の活用を支援し、その時々状況に対応しながらサービスにあたり、支援していけるよう努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりは少ないが、馴染みの人や店を作っています。外出の機会を増やし、地域資源を活用していけるよう支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、週一回。病状に応じて随時、病院受診。夜間急変等、24時間対応していただき、本人、ご家族様に安心していただけるよう支援しています。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護職員が訪問、健康管理を行っており、随時、山内外科の看護師、訪問看護師と連携を取り、24時間を持って適切な支援を受けられるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談は密に行うように努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、医師、看護師、ご家族様との話し合いを持ち、十分に説明、理解、納得していただきスタッフと共に支援に取り組んでいます。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングなどで勉強会を開催、対応、予防について理解を深め、事故発生時は速やかに医師と連絡が取れるよう体制を整えています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年に2回、消防署の協力を得ながら、行っています。発生時に備え、日頃から利用者様が、避難できるよう装置等の確認と点検を行っています。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の立場に立って、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、他言しない対応をしています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望に沿って、共に生活できるように援助しています。うまく言葉を伝えられない利用者様についても表情などをキャッチし対応しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせ、過ごしやすい空間づくりに努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの利用者様の状態に合わせ、選択困難な方は本人に代わり、好みに合わせた服装を選んでいきます。美容院の方が2ヶ月に1回来所し、好みのカットをして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はそれぞれのペースに合わせ、ゆっくり召し上がっていて抱き、一人ひとりの好みの対応をしています。外食支援等で支援に努めています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は記録を行い把握。状況に応じては医師の指示のもと、栄養補助食品の利用を行い、又は点滴を行って頂きながら支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り自己で行えるよう、声掛け等で支援しています。出来ない方に関しては、スタッフが支援しています。週1度、歯科による口腔衛生に努めています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子利用の方においても、排泄パターンを把握し、日中は歩行によるトイレ誘導を行っています。夜間は安眠できるようにパットの種類を検討しながら支援にあたっています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体力低下なこともあり、便秘傾向の方が多く、乳製品などを取るよう心掛け、腹部マッサージや薬調整にて対応しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決め介助しています。体調に応じ、随時清拭等に切り替え対応しています。時に応じ、ゆず湯や森林浴等の入浴剤などを利用しています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を出来るだけ増やし、夜間安眠できるよう配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指導のもと、服薬後の状態観察を行うよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の移ろいを感じて頂けるよう、年に2回の行楽、外気に触れられるような外出計画等を行っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り外出の機会を設け、出かけるように努めています。ご家族様にも一緒に出かけて頂けるように声掛け等をさせて頂いています。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設立替であるが、ご家族理解のもとお金を所持していただき、買い物等に援助をし、本人の意識維持に努めています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話希望等は、出来る限り希望に添えるよう支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感、清潔感を配慮しながら、居心地の良い空間づくりを大切にしながら生活していただけるよう工夫しています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の意思に沿った生活を送って頂けるよう、利用者様同士、気楽に行き来できるよう配慮しています。リビングでは利用者様同士がくつろげるようソファを配置しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活習慣や好みの物、馴染みの物等を飾るなど工夫し、居心地良く過ごせる居室づくりに配慮しています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアを提供するのではなく、出来る事、解かる事の確認をし安全な環境づくりの工夫をし、トイレ、入浴、居室の場所の目印表示を行い、自立生活を送って頂けるよう支援しています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム ファミリア植田

作成日: 平成23年3月21日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域との関わりが薄く、日常的な交流が少ない。運営推進会議に地域住民や社会福祉協議会の職員の参加がない。	町内会に参加し、地域の情報を得て、関わりを深めて行き、多くのご家族様や地域住民が参加できる機会を作り、運営推進会議を有意義なものとする。	ご家族様に対し、運営推進会議についての説明と参加依頼を行った。生き生き支援センターにおいての働きかけと参加依頼を行った。今後、運営推進会議を充実させ、地域へ反映させていきたい。	ヶ月
2		ご家族より・・・職員は職務に追われ、余り入所者の話し相手になれず退屈しているようです。何かホームの中で楽しみがあるとよいと思います。	レクリエーションの充実を図り、利用者様の楽しみを増やす。	週単位での施設内でのレクリエーション、外食、行楽等を加え検討中である。日々の生活の中でのコミュニケーションを図れるようスタッフ間で統一を図るようにした。	ヶ月
3		ご家族より・・・夜間、ベッドからの転倒という事故が多いように思う。という意見があった。	医療連携の下、身体機能強化に努めるとともに巡回、見守りの強化に努める。	日常生活においての身体機能維持と精神安定を図り、安定して睡眠を促す取り組みを改めて検討し合う。医師との医療連携の下、安定剤の調整を行うものとする。	ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。